令和５年度 都立第四商業高等学校全日制課程 学校経営報告

１　中期的目標（方策・成果・課題）

学習指導

【目標】質の高い授業の創造と提供

【方策】

ア　企業・上級学校など外部機関と連携を強化し、指導内容・指導方法の改善を図る。

イ　相互授業参観、指導教諭の活用を推進し、教科間連携・教科指導力の強化を図る。

ウ　学ぶことの喜びや意義を見出し、思考力・判断力・表現力を高める授業づくりに努める。

エ　主体的・対話的で深い学びの実現に向け集団の学びと個の学びとのバランスで学力向上を図る。

オ　持続可能な社会づくりに向けた教育（ＳＤＧs）を推進する。

カ　新聞を活用し、社会への関心、読み書き、情報活用能力を高める教育（ＮＩＥ）を推進する。

キ　平和教育の充実を図る。

ク　消費者教育、金融教育を推進する。

【成果・課題】

ア　１学年「ビジネス基礎」、２学年「ビジネスアイデア」の授業で企業と連携し、商品開発など実践的な授業を展開した。練馬区選挙挙管理委員会と連携し、講演や模擬投票など主権者教育を行うことができた。来年度も引き続き実施する。

イ　教科の枠を超えて、相互授業参観をし、教科間連携を進め授業力向上に努めた。中部学校経営支援センター主催の学校間授業参加制度にも参加した。

ウ　アクティブ・ラーニングやスマスク端末を用いて、教科ごとに思考力・判断力・表現力を高める工夫をした。教科によって、達成度に違いがあるため、今後はさらに改革を進める。

エ　グループ学習や個別学習などバランスを重視し、基礎学力向上に努めた。

オ　各教科とも定期的にＳＤＧsに関する内容に触れ、授業を展開し発表なども行った。今後も引き続き推進する。

生活指導・健康づくり

【目標】健全な心と身体の育成

【方策】

ア　生命尊重、心の育成に努め、いじめ・暴力・自殺の未然防止に努める。

イ　規範意識の醸成を図り、基本的な生活習慣の確立を図る。

ウ　生徒指導ルールの適正化を図り、生徒・保護者への周知・徹底し、組織的な指導に努める。

エ　青少年赤十字（ＪＲＣ）活動を通じて、ボランティアマインドを醸成し望ましい人格形成を図る。

オ　挨拶、身嗜み、時間・私物管理、ビジネスマナーなど組織的・計画的な指導を図る。

カ　体力向上を図り、保健管理、保健教育、環境美化の向上に努める。

キ　安全指導の充実を図り、生徒の安全に対する意識。

【成果・課題】

ア　担任、生徒指導部を中心に、いじめに対するアンケートを実施し分析し、いじめの未然防止に努めた。その結果、いじめに該当する案件は出てこなかった。生徒支援委員会を定期的に開き、心配な生徒の情報を共有し指導を行った。児童相談所や子供家庭支援センターや医療機関と連携して対応したケースもあった。

１学年を対象にスクールカウンセラーによる全員面接を実施した。心に課題のある生徒については維持､スクールカウウセラーや精神科医師の意見を聴きながら対応した。

イ　次年度も遅刻防止対策を実施するとともに、長期欠席の生徒を減らすよう指導する。
ウ　家庭への生徒指導基準の周知と丁寧な指導により、保護者からのクレームが減少した。頭髪については、点検見直しを行い、新基準で指導している。
エ　日本赤十字社東京都支部と連携し、講演会や実技講習を実施するなど、ボランティアや防災に関する知識を身に付けさせた。来年度はさらに内容を充実させ取り組む。
オ　学校生活において、整理・整頓・清潔・清掃・作法などの指導を実施した。ゴミの持ち帰りの励行、リサイクル美化活動を学校全体で推進し清潔な学習環境を整えるように取り組んだ。今後は校舎の老朽化による対策を計画する。
カ　部活動顧問が技術指導できない部活動が増加している。今後は部活動指導員や外部指導員を活用し、部活動の充実を図る。今後は部活動を活性化させるために、設置数を検討し改善を図る。
キ　体育の授業、部活動など生徒の安全に対する教員の意識を高めるようにしている。
正門前の危険個所に、毎日、教員を配置し、安全確認指導を行っている。
自転車のヘルメット着用について、生徒への指導、保護者への通知等を行ったが、生徒のヘルメット着用率が著しく、低いのが課題である。今後は自転車通学許可の際、ヘルメットの着用を条件とするなどの対策が必要である。

進路指導

【目標】生徒の変容に対応した進路指導体制の整備とキャリア教育の充実

【方策】

ア　「人間と社会」と「ホームルーム」の進路指導計画の充実を図り、個に応じた指導を推進する。
イ　就職指導の組織的・計画的な体制の維持と継承を図る。
ウ　大学・専門学校進学指導、公務員受験指導の指導体制の強化・見直しを図る。
エ　インターンシップについては、全教職員の協力のもと効果的・効率的に実施する。

【成果・課題】

ア　「人間と社会」や「ホームルーム」の年間授業計画の中に進路分野を確保した。在校生に向けて作成した「キャリア教育計画」では、個々の生徒に応じた内容に改善し、様々な場面で活用し周知した。その結果、進路未定者の人数が減少した。
イ　１学年、２学年では、２・３学期に外部講師を招き進路活動を実施し、進路選択に向けた情報提供を行った。今後は卒業生を招き体験談を聴けるような機会を作る予定でである。また、来年度はオンラインによる求人票の閲覧制度を新設し、企業選択や就職先の選択方法を充実させる予定で準備を進めている。
ウ　大学進学を目指す生徒に対して１学年より大学関係者からの説明会を開催した。今後は、小論文指導など大学進学者に対する指導体制をさらに構築する必要がある。
１学年、２学年を対象とした公務員説明会を実施した。専門学校による公務員対策指導を行った。今後はさらに公務員試験の合格者が出るように指導する。
エ　インターンシップについては、実施できなかった。その代替として、企業からの講演会とワークショップによる体験型のキャリア教育を実施した。今後は校内体制を見直し、東京都の実施する支援授業を活用し、インターンシップを実施する。

特別活動

【目標】行事・部活動・特別活動の活性化

【方策】

ア　新たな日常に対応した行事や生徒会活動等を検討し生徒が自主的・主体的に運営できるよう指導する。
イ　部活動加入率・活動実績を向上させるための具体的な手立てを検討し実施する。
ウ　部活動・委員会の規定を見直し、部活動・委員会の数について適正化を検討する。
エ　各部相互が切磋琢磨して取り組む環境を整備する。
オ　防災教育の推進を図るとともに地域との連携を強化する。

【成果・課題】

ア　生徒会や委員会活動を活発にされるため、日本赤十字社東京都支部、練馬警察署生活

安全課、練馬消防署貫井出張所などと連携し、生徒会生徒を中心に校内全体で、ボランティアマインドの醸成、防犯・防災活動に取り組んだ。来年度も引き続き実施した。

イ　部活動加入率・活動実績を向上させるために、部活動指導員を活用した部活動指導を充実させるなどした。スポーツ推薦の内容も改善を図った。

ウ　部活動・委員会の体制を見直し、教員の定数減に応じて、部活動・委員会について精査し、教職員全体で協議し改善を図った。来年度もさら部活動の在り方や体制について協議し改善を図る。

エ　各部相互の切磋琢磨については、取り組む環境が整ったが、課題も散見している。今後もさらに改善を図る。

オ　日本赤十字社東京都支部、東京都水道局練馬営業所と連携した防災教育を推進し実施した。日本赤十字社東京都支部と連携した防災教育では全校生徒を対象とした講演会の実施、部活動や生徒会の生徒を対象とした災害時の救護活動の講演と実技講習を開催した。東京都水道局練馬営業所と連携した防災教育では、１学年生徒全員を対象とした災害時の避難、断水時の給水活動についての講演と実技講習を開催した。

募集・広報活動

【目標】学校の広報活動・募集対策の一層の工夫・改善

【方策】

ア　生徒・保護者・卒業生と一体となった学校ＰＲ活動を展開する。

イ　授業・部活動の体験的活動を推進し、積極的に活動内容を外部へ発信する。

ウ　ホームページによる情報発信の充実を図るために、ホームページを改善する。

エ　募集対策活動について、効果的・効率的な方法を検討し全教職員で組織的に実施する。

オ　経営企画室の都民サービスの視点に立った窓口業務、広報活動を推進する。

【成果・課題】

ア　総務部を中心に商業教育と本校への理解を促進する新たな広報活動を構築し全教職員で実施した。

イ　学校案内を中学校230校に送付した。また、出張型学校説明会について案内を出した結果、昨年よりも多くの中学校から依頼があり実施した。

ウ　学校ホームページには、授業内容や行事、部活動の生徒の様子を多く掲載するなど、視覚を重視し、最新の情報を発信するようにした。ホームページ更新の回数など、さらに改善を進める。

エ　昨年まで一部の教員のみで実施していた学校説明会を改善し、校内の体制を見直し、教職員全体で取り組む体制作りを構築した。

オ　学校開放事業を推進し、学校の教育力を発信し地域に還元した。７月に公開講座を実施し、地域の発信することができた。

学校経営・組織体制

【目標】円滑な学校運営・組織体制の強化

【方策】

ア　企画調整会議の機能の一層の強化を図とともに各種会議・委員会の効率化を図る。

イ　情報管理の徹底を図る。

ウ　自律経営推進予算および学校徴収金等の適正な執行管理に取り組む。

エ　施設・設備の点検・保安を徹底し、環境整備を強化する。

オ　働き方改革に取り組み、ライフ・ワーク・バランスと健康管理の一層の推進を図る。

カ　保護者、同窓会、地域との連携を推進し、信頼される学校づくりに取り組む。

キ　経営企画室と職員室の連携を強化し、経営企画室の学校運営への参画を推進する。

ク　高い倫理観をもった組織集団を構築し、経営企画室の経営参画機能を高める。

【成果・課題】

ア　企画調整会議、各種会議・委員会の効率化を図ってきたが、さらに効率化のための工夫を行う。

イ 個人情報の徹底管理、ペーパーレス化の推進を進めた。今後もさらに改善を進める。
ウ 継続して自律経営推進予算および学校徴収金等の適正な執行管理に取り組んでいる。
エ 校舎老朽化のため課題が多く存在する。来年度も引き続き改善を進める。
オ 働き方改革に取り組んだ結果、超過勤務の教職員は減少したが、未だ一部の教職員で超過勤務が認められる。今後はさらに校内体制を見直し、ライフ・ワーク・バランスを推進し、仕事と家庭の両立を推進する。
カ 保護者、同窓会、地域との連携を推進し、信頼される学校づくりに取り組んだ。
キ 経営企画室と教職員の連携について改善を図り、奨学金や証明書発行手続きなどについて協議を進め体制の見直しを行った。
ク 経営企画室の経営参画機能を高め、安全で整理された学校環境の維持管理を強化した。

２　今年度の目標と方策　（１）教育活動（方策・成果・課題）

学習指導

【目標】良質な授業の提供と教科マネジメントの充実を図る。

【方策】

ア　新学習指導要領に対応した教育課程の円滑・適正な実施に取り組む。
イ　学力向上研究校（校内寺子屋）事業は、学年・教務・各教科を中心に推進し基礎学力向上を図る。
ウ　１・２年生は、スタディサプリを導入し、活用を推進する。
エ　ＩＣＴ機器、スマスク端末の活用を推進し、オンライン授業・家庭学習の拡充を図る。
オ　企業や上級学校と連携した授業を工夫し、主体的な学び・わかる・楽しい授業に取り組む。
カ　段階的・系統的な学習指導に取り組み、各種検定試験3級全員合格、上位検定試験取得を拡充する。
キ　図書館利用を推進し、読書・新聞の活用を図る。

【成果・課題】

ア　新学習要領に対応した教育課程に円滑に移行、実施することができた。
イ　学力向上研究校（校内寺子屋）事業では、担任、教科担当が中心となり、対象生徒の出席率向上にも努め、外部人材も活用し、基礎力向上を図ることができた。
ウ　各教科で工夫し、スタディサプリを活用した。使用頻度の少ない教科もあったが、今後は各教科工夫し、さらに有効活用を進める。
エ　スマスク端末などを活用し、オンライン学習日を設定し試行した。今後はさらに改善し、いつでもオンライン学習に切り替えられるようにする。家庭学習の習慣が身に付いていない生徒について、スタディサプリの活用について指導する。
オ　地元企業や団体と連携し、１学年「ビジネスビジネス」２学年「
キ　図書館利用を推進し、読書・新聞の活用を図る。特に新聞の活用については、全校でＮＩＥ(Newspaper in Education)教育に取り組み、教材や調査研究の素材として、新聞を積極的に活用した。生きた教材である新聞を通じて、文章を読む、書く能力が身に付き、思考力・判断力・表現力が豊かになった。今後も教科指導・特別活動等において、調査・研究活動で図書館を積極的に活用し読書活動を推進し、新聞を積極的に活用した。

生活指導・健康づくり

【目標】生徒に寄り添い、生徒に向き合う指導を心掛け、生徒の自立を支援する。

【方策】

ア　養護教諭、ＳＣ、学校医、外部機関との連携を深め、生徒の心・健康のケアの一層の充実に努める。
イ　コンディションレポートの円滑な導入と活用に取り組む。
ウ　発達障害教育推進エリアネットワークの活用を推進する。

エ　特別支援委員会を中心に生徒の情報共有を図り、いじめ・自殺等防止と学習障害の対策を講じる。
オ　ＳＮＳ・薬物・詐欺などについての正しい理解を深めさせ、生徒の安全を確保する。
カ　交通ルール・安全走行について指導を実施し、自転車安全走行指導を徹底する。

【成果・課題】

ア　定期的に生徒支援委員会を開き、担任、養護教諭、ＳＣ、学校医、精神科医との連携を深め、課題のある生徒の支援を行った。
イ　コンディションレポートの活用に取り組んだが、十分には活用されていない一面もある。今後、校内体制や活用方法の改善に努める。
ウ　練馬特別支援学校と連携し、校内研修も開催した。今後も引き続きエリアネットワークを活用し、校内の指導体制を充実したものにする。
エ　１年間を通して、特別支援委員会を随時開き、課題のある生徒の情報共有を行い、いじめ・自殺等未然防止に努めた。生徒の多様化を見据え、今後も個々の特別支援教育について積極的に取り組む。
オ　練馬警察署生活安全課をはじめ外部機関と連携し、ＳＮＳ・薬物乱用・特殊詐欺などについて、講演会を開き、正しい理解を深めさせた。今後引き続き、繰り返し実施し、生徒の安全確保に努める。
カ　交通ルール、安全走行について継続して指導してきたが、ヘルメット着用率が極端に低い状況である。来年度は校内の指導体制を見直し、ヘルメット着用率を向上させる指導体制を構築させる。

進路指導

【目標】生徒の進路希望の実現

【方策】

ア　ガイダンス機能を高め、進路指導部、学年のみならず全教職員で生徒の進路実現を達成する。
イ　学年集会、個人面談を活用して、粘り強く「諦めさせない」指導に努める。
ウ　大学進学希望者には、模擬試験を奨励し、自己理解を深めさせ、的確な目標設定を指導する。
エ　職業、仕事と資格の関係、働くルールなどについて、理解を深めさせる指導を徹底する。

【成果・課題】

ア　進路指導部を中心に全教職員による面接指導、小論文指導を実施した。担任については、随時、三者面談を実施するなど、全教職員で生徒の進路実現に向けて指導した。今後は工夫し、さらに効率的に進路指導ができる体制づくりを行う。
イ　学年集会、個人面接については、各学年ともに定期的に実施した。
ウ　大学進学希望者の中には、英語の基礎学力の低い生徒がいる。英語科教員による補習授業、スタディサプリを用いた家庭学習などで改善する。今後は大学進学希望者に対して、基礎学力診断テストだけではなく、模擬試験の受験も指導する。
エ ビジネスマナー、年金など社会保険制度、主権者教育について指導してきたが、今後は、さらに高度な内容を身に付けるために外部講師などを活用する

特別活動

【目標】部活動等の推進と生徒の帰属意識の向上

【方策】

ア　リサイクル・美化活動を推進し清潔な学習環境の整備を行うための手立てを検討し実施する。
イ　新入生の部活動参加を奨励し、生徒の学校に対する帰属意識を醸成する。
ウ　体育祭・文化祭を通じて生徒の成就感・達成感を高める。
エ　生徒会・委員会活動を支援し、生徒の自主的・自律的な活動の充実を図る。

【成果・課題】

ア　美化委員会による放課後の巡回や放送、校内全体で「ゴミの持ち帰り」を実践して

いる。使い捨てコンタクトレンズケースや使用済み歯ブラシなどの回収に取り組みリサイクルに取り組んだ。

イ　新入生の部活動参加を奨励したところ、一部の部活動に多くの生徒が入部したが、全体的には大幅に増加していない状況である。

ウ　体育祭・文化祭ともにコロナ禍前の状況に戻すことができた。

エ　学校行事等で生徒会・委員会活動を支援し、生徒の自主的・自律的な活動の充実を図った。外部団体とも連携させ、さまざまな活動を行うことができた。

募集・広報活動

【目標】入学者選抜における応募倍率の向上

【方策】

ア　ＨＰには、最新の授業や行事、部活動等の様子を魅力ある工夫を施しＰＲ効果を高める。

イ　学習塾や西部地区への積極的な広報・募集活動を検討し実施する。

ウ　出前授業・学校説明会・見学会・授業公開・部活体験等の充実を図る。

エ　Twitter、Instagram等を有効活用し、ＳＮＳによる発信力を強化する。

【成果・課題】

ア　ビジネス科の取り組み状況や行事、部活動の活動状況などの情報提供や最新情報を更新するなど、視覚を重視、最新の情報を外部に発信するＨＰに改善を試みた。さらに改善する余地がある。

イ　在校生にアンケートを取り、中学生時代に通っていた学習塾を調べ、学習塾に訪問、学校案内の郵送など行った結果、受検生の増加につながった。

ウ　中学校へ案内嬢を出し、出前授業や出張学校説明会などを積極的に行った。学校見学会や学校説明会の見直しを行い、昨年よりも多くの中学生や保護者を集めることができた。

エ　Instagram等を有効活用し、ＳＮＳによる発信力を強化した。今後は旧Twitterも活用する。

学校経営・組織体制

【目標】組織力強化のための体制の再構築

【方策】

ア　分掌主任を中心に強固な組織体制を構築し中間・年間を総括し成果と課題を検証し活性化を図る。

イ　新学習指導要領に対応した教育課程の円滑・適正な実施に取り組む。

ウ　C4th（成績管理システム）の円滑な導入（１・３年）を図る。

エ　学級減に伴う教員定数・生徒減に伴い、業務・行事・部活等を見直し、業務の効率化を図る。

オ　節電等の省エネルギーや資源リサイクルを推進する。

カ　Teams、RAIDEN等の活用を推進し、保護者との円滑な連絡体制を強化する。

キ　ホームページ適正管理、セキュリティ対策、情報漏洩事故の防止について周知徹底を図る。

ク　施設・設備の定期的な安全点検・安全管理及び迅速な修繕に取り組む。

ケ　服務事故防ゼロを達成し、生徒・保護者の信頼を確立させる。

【成果・課題】

ア　分掌会議や教科代表者会議を中心として、本校の教育力の向上を図るために、中間総括、年間総括を実施し成果と課題を検証した。課題改善に取り組み、さらに教育力を向上させる。

イ　新学習指導要領に対応した教育活動の円滑・適正な実施に取り組んだ。観点別の評価方法を確立し、各教科実施している。

ウ　C4th（成績管理ｼｽﾃﾑ）の円滑な導入（１・３年）を図った。校内のシステムを確立し、有効に運用することができるようになった。

エ　保健厚生部を中心に節電等の省エネルギーや資源リサイクルを推進した。

オ　総務部を中心として、ホームページ適正管理、セキュリティ対策、情報漏洩事故の防止について周知徹底図った。

カ　各担任、各教科ともにTeams、RAIDEN等の活用を推進し、保護者との円滑に連絡体制を強化することができた。

キ　総務部を中心として、ホームページ適正管理、セキュリティ対策、情報漏洩事故の防止について周知徹底を図った。

ク　施設・設備の定期的な安全点検・安全管理及び迅速な修繕に取り組む。特に校舎の外壁工事は大規模であったが、計画的に円滑に工事を進めることができた。来年度は、火災報知器の大規模な点検と工事を進める。

ケ　定期的に服務事故防止に関する校内研修を実施した結果、服務事故防ゼロを達成した。その結果、生徒・保護者の信頼を確立させることができた。引き続き服務事故ゼロを維持できるよう、校内研修や校内のチェック体制の整備を継続して行う。

３　今年度の目標と方策　（２）重点目標（方策・成果・課題）

学習指導

・商業高校における共通教科のあり方を検討し指導内容の改善を図り基礎学力を向上させる。
→年間指導計画の見直し・改善をし、探究学習智王の演習中心のOutput型の主体的・対話的で深い学びの視点からの年間授業計画に改善を行った。
・オンライン個別学習（スタディサプリ）の稼働率を高め、家庭学習時間の改善を図る。
→各教科横断的にスタディサプリを利用させ、家庭学習時間の改善に努めた。教科による偏りがあるため、来年度はさらに改善に努める。
・オンライン学習デーの充実を図る。
→オンライン学習デーを工夫して実施した結果、大きな成果が出た。今後も引き続き改善に努める。スタディサプリの有効活用についても検討する。
・学力向上研究校（校内寺子屋事業）の活用を図る。
→外部人材を積極的に活用に校内寺子屋事業を展開した。今年度で学力向上研究校（校内寺子屋事業）が終了するため、来年度は各教科で放課後の補習授業を充実させる。
・各教科、特別活動等においてＳＤＧｓに関する取り組みを推進する。
→各教科、特別活動等において、校内全体で、ＳＤＧｓに関する取り組みを推進した。今後もさらに取り組みを活性化する。
・各教科、特別活動等においてＮＩＥに関する取り組みを推進する。
→各教科、特別活動等においてＮＩＥに関する取り組みを推進した。今後もさらに取り組みを活性化させる。
・商業教育コンソーシアム等との連携によって最前線のビジネス教育を実践する。
→商業教育コンソーシアム等との連携し、今年度はスーパーマーケットチェーンのオオゼキ、生命保険会社の第一生命から実学に基づいた最前線のビジネス教育に取り組んだ。来年度も継続して実施する。
・ビブリオバトル等の機会を利用して、未読者率の改善を図る。
→国語科を中心に読書活動に取り組み、ビブリオバトルの大会参加など、校内全体で読書活動に取り組んだ。

【数値目標】商業基礎的検定３級（簿記・情報処理・電卓）合格率１００％
【成果】　　商業基礎的検定３級（簿記・文書実務・電卓）合格率　７４％

生活指導・健康づくり

・学校生活において、整理・整頓・清潔・清掃・作法・躾の６つのＳを実施する。
→保健部を中心に校内美化に努めた。ゴミは各自持ち帰るよう指導し習慣化された。
・挨拶励行、私物・ＳＮＳの適切な管理について、指導の徹底を図る。
→挨拶励行について、校内全体でたいへんよくできるようになった。ＳＮＳの適切な使用方法については完全でないため、引き続き改善に努める。
・頭髪や身嗜みの統一基準について、共通理解の徹底を図り、生徒・保護者に周知徹底し理

解を得る。
→頭髪指導については見直しを行い、課題のあった校内統一基準を改善した。
・様々な機会を通じて、健康・安全、奉仕、国際理解親善の活動の機会を推進する。
→学校全体で青少年赤十字（ＪＲＣ）に加盟し、ボランティアマインドの醸成、国際理解親善の活動を推進した。今後も引き続き積極的に取り組む。
・持久走、水泳等の体育活動を通じて、体力向上に取り組む。
→校舎の外壁工事の影響で、校庭使用に制限があったが、持久走や水泳等の体育活動も滞りなく実施することができた。
・生きる力を育む歯・口の健康づくり推進に取り組む。
→校内全体で本事業を推進し、学校歯科医とも連携し取り組んだ結果、歯科医師会から表彰を受けた。
・ＳＣや関係機関との連携を強化し、特別支援委員会による情報交換会により、特別支援の充実を図る。
→ＳＣをはじめ練馬特別支援学校とも連携し、特別支援教育に取り組んだ。定期的に特別支援員会を開き情報交換を行い、特別支援の充実を図った。
・ユニバーサルデザインの取組みについて、意識の醸成を図る。
→青少年赤十字（ＪＲＣ）の活動や生徒会活動を通して意識の醸成を図った。
・自転車利用者のヘルメット着用努力義務の周知と指導の推進を図る。
→自転車理商社のヘルメット着用努力義務について周知と指導の推進を行ってきたが、生徒のヘルメット着用率は伸びなかった。来年度は指導体制を大幅に見直し、ヘルメット着用率を向上させる。
【数値目標】遅刻回数　１日あたりのクラスの平均遅刻人数２人以内
【成果】　　遅刻回数　１日あたりのクラスの平均遅刻人数２．６人

進路指導
・令和６年度に向けて「人間と社会」の見直しを行う。
→令和６年度に向けて「人間と社会」の年間指導計画を見直しより充実したものに改善した。
・生徒の進路希望の変化に応じて、就職、大学、専門学校等の分野に応じた指導体制を改善する。
→学年と進路指導部で連携し、外部講師を招きガイダンスを実施した。
・保護者や生徒に対し大学入試、就職活動についてきめ細やかな情報提供・相談を実施する。
→１学年から就職・進学を意識した進路指導を実施した。進路指導部で求人票の閲覧システムを開発した。来年度から求人票の閲覧が効率的にできるようになった。
・面接、作文（小論文）、志望理由書の書き方、進路相談について全教職員で対応する。
→面接、作文（小論文）、志望理由書の書き方、進路相談について全教職員で指導した。来年度はさらに充実した指導体制を構築する。
・インターンシップの実施形態について検討する。
→本年度はインターンシップは実施できなかったが、来年度は外部機関と連携し、インターンシップを実施できるよう準備を進めている。
【数値目標】進路決定率１００％
【成果】　　進路決定率　９７％（就職３６名、公務員２名、大学２９名、専門学校３４名）

特別活動
・部活動加入を奨励する。
→部活動加入を奨励したが、加入率は伸びなかった。来年度に向けて改善策を講じる。
・各行事を通して、生徒の自己肯定感を向上させ、リーダーシップ・フォロワーシップの育成を図る。
→文化祭・体育際などの学校行事を通じて、生徒の自己肯定感を向上させた。今後は生徒会活動を充実させ、生徒自らが運営できる力を身に付けさせる。
・地域貢献活動の推進を図る。
→１学年「人間と社会」を通じて、草花を育て近隣の老人ホーム届けるなど地域貢献活動を推進することができた。

・年４回の避難訓練等を計画的に実施し、防災知識を深めさせ、実践的な行動力を身に付けさせる。
→年４回の避難訓練を火災・地震など、毎回テーマを決めて実施した。今年度は新たに大地震に備えて、地域ごとに班に分かれて帰宅する帰宅訓練を２回実施した。
【数値目標】部活加入率７０％（前年度６７％）
地域貢献活動１０回
【成果】　部活加入率６８．７％
地域貢献活動１１回

募集・広報活動
・文化・スポーツ等特別推薦の方法について見直しを検討する。
→硬式野球部と女子バスケットボール部の文化スポーツ推薦を見直し新たな体制で実施した。
・学校説明会などの実施について総務部を中心に新たなに実施方法を検討し、全教職員で取り組む。
→昨年まで一部の分掌、一部の教員で実施していた学校説明会を改善し、全教職員で取り組むようにした。その結果、全教職員で募集活動を
・広報ＤＶＤ、学校案内パンフレットの外注により作成する。
→デザインや構想などに工夫を加え、広報ＤＶＤ、学校案内パンフレットを作成した
・中学校への出張授業、出張説明会の機会を拡充する。
→中学校に案内状を送付し、出張授業や出張説明会の案内を出すなどした結果、中学校からの依頼が多大幅に増加した。応募倍率確保のため、今後も引く続き実施する
・部活体験、授業体験の機会を拡充する。
→硬式野球部、女子バスケットボールで部活動体験を実施した。学校説明会では、簿記・状処理の授業体験を実施した。
・学校開放事業を推進するとともに、学校の教育力を地域に還元していく。
→学校開放事業で公開講座「韓国語入門」を実施し、地域に貢献するともに、本校の幅広い教育力を地域に発信し、募集対策にも貢献した。来年度はテニスコートの施設開放なども積極的に推進する。
【数値目標】推薦倍率１．５倍　：　学力検査倍率１．１倍（前年度　１．８６　：　１．０４）
【成果】　推薦倍率１．２倍　：　学力検査倍率０．８９倍

学校経営・組織体制
・四商改革ＰＴを機能させ、より良い学校づくりに反映させる。
→定期的に四商改革ＰＴを開催したことにより、多くの新しい意見を聴取できた。今後も引き続き四商改革ＰＴを開催し、より良い学校づくりに反映させる。
・教科代表者会を中心に、四商に最適な指導法を教科横断的に研究し、教育力の向上を図る。
→教科代表者会を中心として、観点別評価について教科横断的に研究し実施した。教科によって観点別評価の方法が異なるなど今年度の課題について再検討を加えさらに改善し、校内全体の教育力の向上に取り組む。
・各自で定時退庁日を設け、在校時間の縮減を図るとともに、年休取得を促進する。
→超過勤務の教職員に対し、継続的に声掛けを行った。その結果、全体的に在校時間の縮減につながった。今年度、生徒の欠席連絡や保護者からの連絡の電話受付時間を設け、時間外は音声対応し、時間外勤務を削減した。年休取得については、年休を取りやすい仕事内容の教職員、取りにくい仕事内容の教職員が混在している状況であり、年休取得ができていない教職員もいる。今後は職務の平準化を目指し、教主職員全員が年休を取得しやすい環境を整備するなど、働き方改革をさらに推進する。
・各種会議の上限を１時間以内とし、ペーパーレス化、業務の効率化を推進する。
→各種会議に工夫を加え、ペーパーレス化、業務の効率化を目指したが、校内のネットワーク環境に課題があり、各種会議資料のペーパーレス化は実現できなかった。今後は、校内のネットワーク環境を整え、引き続きペーパーレス化、業務の効率化を目指す。
・警察署、消防署、区役所等との連携を強化し、安全管理の徹底と危機管理体制を改善する。
→練馬警察署生活安全課、練馬消防署貫井出張所、東京都水道局と連携し、講演会など安全

教育を実施した。練馬警察署生活安全課では特殊詐欺防止、ＳＮＳの危険性に関する講演会、練馬消防署貫井出張所と東京都水道局では大地震時の避難や給水活動についての講演や実技について安全教育を実施した。今後も引き続き外部機関と連携しながら安全教育を推進する。

・経営企画室の経営参画機能を高め、安全で整理された学校環境の維持管理を行う。

→奨学金の申請、各種証明書の発行など、経営企画室、学年と進路指導部で協議する機会を作った。出願ミスを防止するために、今後も協力体制を維持しながら運用する。
校舎の老朽化に伴い、引き続き経営企画室を中心に学校環境の維持管理や修繕業務に取り組む。

・学校経営計画及び分掌組織目標を踏まえ、自己申告における目標設定を行う。

→スクールミッション、学校経営計画、各分掌の組織目標をもとに、全教職員が

・各分掌においては、中間総括（９月）最終総括（３月）の実施・報告を徹底する。

→各分掌、各学年で、中間総括（９月）最終総括（３月）の実施・報告させた。その結果、課題を見出すことができ、年度途中で軌道修正も行うことができた。

・企画調整会議の内容について各分掌主任は

→企画調整会議の内容について、メンバーの確実に伝達できていない分掌もあった。今後は、分掌メンバーに確実に伝達し周知徹底を図る。

・研究紀要（復刊第２号）を編集・発行する。

→３月に研究紀要（復刊第２号）を編集・発行することができた。来年度も引き続き研究紀要（復刊第３号）を編集・発行する予定である。

【数値目標】年休取得１５日
給与等の支給明細書電子交付８０％

【成果】　年休取得１４日
給与等の支給明細書電子交付５４％